

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271500344		
法人名	株式会社 アミーゴ島根		
事業所名	グループホーム 雲南・ゆりさわ		
所在地	島根県雲南市三刀屋町伊萱40－6		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和元年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	平成31年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人ひとりが、その人らしい生活を送っていただけるよう努めています。有する力を発揮できる支援内容を考え、生活の中に取り入れるようにしています。これまでの生活やご本人、ご家族の思いを大切にしながら、事業所での生活を安心して居心地良く過ごしていただけるよう支援しています。暖かい、笑顔の絶えない雰囲気作りを心掛け、第二の楽しい我が家を目指しています。地域との連携を深め、大規模災害時での協定のもと、互いに助け合います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から15年を経過しており、自治会の奉仕活動や行事を通しての交流はずっと続いている。この地域一帯が川沿いの低い場所が殆どなため、大規模災害以後、防災意識も高く、避難場所として施設を提供することになっているほか、今年度は避難訓練への参加協力や災害時の防災協定書を結ぶなど、関係性は密なものになってきている。以前から看取りや重度化に対応しているが、ここ2年は看取りはなく入所者の平均介護度が段々と軽くなっていることから、ゲームを含んだ軽運動や歌を多く取り入れ、口腔体操にも時間を割いており、昼食前の時間にはホールから大きな話し声や歌声が聞こえ活気がある。サービス施設としての知名度はあるが、小規模への理解はまだまだ不十分なものもあり、昨年は全体として見学会を開催している。今後に於いてもグループ全体での繋がりを強化することで地域密着型の利点を感じてもらえるような取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届くところに理念を掲げ、常に頭におきながら仕事に取り組んでいる。	開所当初に社長が作成した理念を引き継いでいる。海外での生活経験を生かし、故郷でこの事業に取り組もうとした思いを含めて、新人教育では考え方を伝えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りへの参加、清掃活動への参加、事業所の避難訓練に参加していただく等、交流を図っている。	地域の親睦会を兼ねた総会には毎年参加を続けている。今年度は神社の改装イベントに参加したり、祭り等の行事への参加や奉仕活動には職員が参加協力をしている。サービス周知の為に、事業所見学会も開催し多くの参加者があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成30年9月に事業所見学会を開催し、地域の方に事業所を知って頂いた。28年度に調査員の方が「地域の方にどんなところか説明する環境を作ることが重要」と言われたが、それを実行する事ができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や行事についての報告、ひやりハット報告等の話し合いを行い、サービスに活かすようにしている。	地域からは民生委員、包括、家族代表が参加して定期に開催。行事等の活動報告を行い、地域からの情報を得たりして質問に返答している。ヒヤリハットの内容をグループ全体で共有するようとの意見を得て、各委員会に繋げることとした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報提供や相談事項など、常に連携をとっている。ご家族様の、「身体拘束になっても良い」という意見について相談させて頂いた。	家族対応の難しいケースがあり市に相談してアドバイスを受けている。生活保護の担当職員には年1回訪問時に様子を伝えている。その他認定調査の際にも関わりを持つなど、良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化のための指針を整備し、身体的拘束等適正化研修、身体拘束適正化会議を行っている。	身体拘束適正化検討委員会を3か月に1回開催している。指針を共有し理解するところから始め、定期的に項目にチェックを入れるようにして、振り返りを行っている。日中の施錠は行わず、出ようとする方には一緒に歩き見守るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、内部研修として職員間で確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成30年度権利擁護推進委員養成研修に参加し、伝達講習を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前説明の上に、契約時にも理解を得られるよう、わかりやすい説明を心掛けている。不明なことがあれば、いつでも問い合わせていただくよう声掛けを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への連絡を密にするように心掛け、いつでも気軽に話していただける雰囲気作りに努めている。アンケートを実施し、こまめに連絡をしてくれてありがとうという意見を頂いた。	年1回家族へのアンケートを実施しており、出た意見を業務改善に繋げている。毎月医療面の報告や日々の様子を伝える手紙を家族に送り、意見を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見を聞くことに努め、業務の改善など対応している。29年度の目標を毎月1人以上の面談とし、意見を聞く機会を作ろうとした。しかし上手に時間を作る事が出来ず、あまりできなかった。	管理者は職員が個々に作成した個人目標に沿って、年度の途中で進捗状況を見るためにも、面談をすることになっていたが、あまりできていない。今後は社長と管理者2人で全員の面接を行うよう計画している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の意見を聞き、可能な限り働きやすい職場作り、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は可能な限り外部への研修会に参加している。事業所内での勉強会も開き、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲南地域グループホーム部会での研修会や他施設実習を通じて交流を図り、他施設の取り組みなどを参考に、自施設のサービス向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や見学を通してお会いできる機会を設けている。(入居前に前事業所に食事介助に行く等)ご本人、ご家族からの聞き取りや情報収集を行い、ご本人の思いやこれまでの生活歴、現在の状況を把握し職員間で共有するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や困っていることなど、思いを傾聴していくことで、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族との面談時や関係者からの情報提供などから、何が必要なのかを見極め、入居後の支援方法などを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の要望を取り入れながら、ご自分で出来ることはしていただくよう支援している。又、共に過ごす時間を多く持ち、28年度の調査員との話でも言われたが、寄り添うことを大切にすることに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を密にして、現況に変化があった時には、必ず報告をし確認をとっている。受診時の付き添いや、食事介助していただくこともあり、共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染みの方の面会時は、お茶やお菓子をだしゆっくり過ごしていただけるような環境作りをしている。また、実家の畑等に行くなど、個別での外出支援も行っている。	以前に比べ友人、知人の方々の面会は減っている。家に帰りたい思いにすぐに対応できない場合もあるため、グーグルで生まれた家と一緒に探し見てもらうことで、少しでも気持ちが落ち着くよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のご様子の中でご利用者同士の関係を把握し、テーブル席を配慮したり、必要時には職員が間に入る等して、良好な関係を築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談・援助の体制にあることを説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から希望や意向を把握し、表情からも思いをくみ取りよう意識している。それらを職員間で共有しながら、声なき声の支援につなげるよう努めている。	新たな入所の場合、認知症の病名から症状への理解や対応について勉強会をしたり、日々の様子から気づいたことは職員間で共有するようにしている。入所後間が無く言葉の出にくいケースがあるが、少ない発語を繋げるよう試行錯誤を繰り返している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にできるだけ情報収集し、把握に努めている。又、関係ができていく中で、ご本人、ご家族からお話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での気づきや様子などを朝礼やカンファレンスで話し合い、職員間で共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や状況をもとに計画を作成している。朝礼やカンファレンスの中で、日々の気づきや問題点を話し合い、ケアの見直しを行っている。	重度化が進み計画の変更が必要な場合は、家族参加で対応を検討しているが、更新時の担当者会議への家族関係者の参加はあまり得られていない。モニタリングは毎月行い記録に残している。	本人、家族関係者などできるだけ多くの参加者で担当者会議が開催できるよう検討いただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノート、業務日誌の活用により、職員間での情報の共有に努め、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の状況に応じて、柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの方の協力や、地域の行事への参加を通して、地域と協働できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の希望のかかりつけ医により、往診、受診等の支援をしている。ご家族が同行されたり、連絡を取りながら対応している。	以前からのかかりつけ医を継続することも、定期的に往診可能な協力医に変更することも可能で、入所時に決定するようになっている。協力医については休日夜間緊急時にも指示が得られるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中での気づきや体調の変化などを看護師に報告、相談し対応している。又、個別記録や業務日誌、受診記録など周知できる書面に記録するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居中の生活状況などを情報提供している。入院中の面会や、病院関係者との情報交換や相談を行い、連携して支援できるように努めている。情報提供として写真を添付したところ、看護師から参考になったとの意見を頂いた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ご家族やかかりつけ医との話し合いを行い、事業所でできることを説明しながら方針を共有し、関係者と共に連携して支援に取り組んでいる。	重度化に向けてはできるだけ話し合いの機会を持ち進めることとしており、以前に看取りを行っている。今後に於いても、かかりつけ医の協力も得られるため、看取りに取り組む意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し緊急時に備えている。また、救急法の研修会も開催している。実際の場面で落ち着いて対応できるようマニュアルに定期的に目を通す機会を設けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回、消防署、地域の方のご協力のもと実施している。また、災害時の地域連携の協定を結ぶことができたので、地域と連携して訓練を行いたい。	運営推進会議に出席がある地域の方に参加してもらい、訓練を実施している。避難者を見守る形で参加してもらい、地域とは大規模災害の応援協定書を結んでいる。地域全体が低い土地で事業所は高い為、避難場所として提供するようになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりを尊重し、ケアの場面で、その方にあった声掛けや対応方法を心掛けています。	ケアの基本であるが実践者研修から時間がたっている職員も多い為、定期的な研修の必要性を感じている。方言や言葉がけで混乱させてしまうような場合もある為、必要時には注意するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	平成30年度権利擁護推進委員養成研修での自施設実践を行った。認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインを基に意思決定を働きかけた。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や予定はあるが、無理強いはず、その方のペースで過ごしていただけるように、又、ご希望に応じた支援ができるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご本人に選んでいただいたり、スカーフなどをしておしゃれを楽しまれている。ご希望で、衣類の買い物に出かけ、ご自分で選んでいただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外注だが、ご利用者の状態に合わせて、刻みやとろみにして提供している。行事などで食事やおやつを手作りして食べたり、準備や食器洗いなどの片付けを手伝っていただいている。	副食は外注を利用し主食や汁物はここで作るようにしている。調理を職員と一緒にする機会は少ない為、おやつ作りを楽しむようにしている。下膳やお盆拭き、コップ洗いなどは進んで行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事の形態、好みの量などに配慮し、摂取量や状況など記録表にて把握し支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや見守り、介助など、その方に合わせた対応で行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、その方に合わせた声掛けや介助を行っている。例えば、トイレ内にパットを何処に捨てるか張り紙をしたことで、不潔行為が少なくなり、自力でパットの取替えもしている。	夜間はオムツ使用でも日中は紙パンツでトイレ誘導したり、車いすでも起立可能な場合は、できるだけトイレ介助するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録表にて状態を把握し、かかりつけ医、看護師と相談しながら、個々に応じて対応している。便秘予防のために牛乳や嗜好飲料などで水分摂取を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ夕方に入浴するようにし、入浴後にパジャマに着替えている。希望や体調に合わせて対応している。	家庭用の浴槽であり広くはないが、できるだけ浴槽に浸かり温まるようにしている。午後3時以降に入浴するようにしており、1日3人づつ、3日に1回のペースとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やホールのソファ、など個々の利用者にあつた所で、その日の気分や状態により休んでもらっている。量の間を活用していくことが課題。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本情報を職員がいつでも確認できるようにしている。誤薬がないように職員同士でチェックしてから、その方に合わせて必要な介助を行い服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や生活歴、得意なことや出来ることが役割へとつながるように、レクリエーションや日常生活の中に取り入れられるよう支援している。(家事作業や畑仕事など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に応じて散歩や買い物、散髪、帰宅などの外出支援を行っている。行事にドライブを計画し、外出の機会を作っている。	年に数回は食事会を計画して実施しているが、日常的な外出はあまり多くはない。数人づつ食後の時間帯にドライブに出かけるようにしたり、天気の良い日には、施設周りをできるだけ散歩するようにしている。	グループ全体で行き来を増やすなど、外に出る機会を増やすよう検討いただきたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の金庫にて保管し、ご希望に応じて買い物の付き添いや代行をしている。ご家族が安心できるよう領収書で報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など、ご利用者の希望に応じて利用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には利用者と一緒に作った作品やカレンダーを飾っている。季節に応じて飾りや花を置いたり、畳の間にはテーブルを置き、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。しかし、ホールに集まることが多く、うまく活用できていない。	デイルームからは和風の中庭が望め、季節の花や木を楽しめる。騒音もなく静かで明るすぎず落ち着いた雰囲気がある。壁には手作業で作成したカレンダーが貼られ、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには畳の間やソファがあり、自由に利用していただいている。又、ご利用者同士の関係性を把握し、テーブル席や過ごされる場所を配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方の使い慣れた身の回り品を持ち込んでいただき、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	畳の部屋が2つあるが全員ベッドを使用している。あまり多くはないが、テレビ、衣装ケース、タンス、服かけなど家で使用していた物が持ち込まれている。写真などを飾り1人でもくつろげるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所への手すりの取り付けや、ベッドの位置など、身体状況に応じて安全に生活していただけるよう、環境整備など工夫している。		